（様式２）

指定管理者制度導入施設の管理運営状況 【対象年度：令和6年度】

※1～6：所管課記入、7：指定管理者記入、8～9：指定管理者及び所管課記入、10：指定管理者及び所管課記入（実施した場合）

所管部・課	県民文化部文化振興課
指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団

1 施設名等

施設名	長野県伊那文化会館	住所	長野県伊那市西町5776
		電話	0265－73－8822
		ホームページ	https://inabun.jp/

2 施設の概要

設置年月	昭和63年12月	根拠条例等	長野県文化会館条例
設置目的	県民の文化の振興と福祉の増進を図るため設置する。		
施設内容	・大ホール（1,371席）･･･舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋（５室） ・小ホール（436席）･･･舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋（２室） ・美術展示ホール、プラネタリウム（80席）、レストラン、駐車場（普通車590台・身障者用６台、近隣施設と共用）		
利用料金	大ホール（39,200～472,700円）、小ホール12,400～149,500円）、楽屋（900～6,400円）、美術展示ホール（6,400～40,800円） プラネタリウム（120～400円）、その他「附属設備」「冷暖房」「持込電気器具電気料」など		
開所日	毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始（12月28日から1月3日まで）及び保守点検日を除いた日		
開所時間	通常：9:00～17:00、最長：8:00～21:30（ただし、美術展示ホールは18:00まで）		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期　間	管 理 形 態	管理受託者又は指定管理者等
～平成17年度	管理委託	財団法人長野県文化振興事業団
平成18年度～20年度	指定管理	財団法人長野県文化振興事業団
平成21年度～25年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団
平成26年度～30年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団
令和元年度～5年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団	指定期間	令和6年4月1日　～　令和11年3月31日（5年間）
選定方法	非公募		

5 指定管理料（決算ベース）

令和6年度（A）	令和5年度（B）	差（A）－（B）
226,326 千円	220,055 千円	6,271 千円

※（A）：当該年度、（B）：前年度（以下同じ）

増減理由	嘱託職員の雇用による人件費の増や、労務単価の上昇による委託料の増のため。

6 指定管理者が行う業務

・施設及び設備の維持管理に関する業務
・文化会館の利用の許可及び利用料金に関する業務
・芸術文化の振興に資する事業の企画及び実施に関する業務
・上記業務に附帯する業務

7 利用実績等

（1）利用実績【指標：大・小ホール、美術展示ホール、プラネタリウム稼動率】　（単位：%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和 6年度（A）	57.0	45.4	67.3	50.0	69.5	80.4	75.0	58.7	57.6	45.8	57.7	61.5	60.5
令和 5年度（B）	21.9	51.2	51.0	76.9	66.4	66.7	66.9	74.0	51.8	41.7	74.8	64.0	58.9
（A）/（B）	260.3	88.7	132.0	65.0	104.7	120.5	112.1	79.3	111.2	109.8	77.1	96.1	102.6
増減要因等	令和5年度は空調改修工事や照明改修工事に伴う稼働率の減少があったが、令和6年度は大規模な工事もなく、全体的にはコロナウイルス感染症の影響が徐々に薄れてきたことで稼働率が向上している。												

（2）利用料金収入　（単位：千円、%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和 6年度（A）	1,293	2,204	1,817	1,458	4,855	2,578	2,375	3,864	2,981	1,289	1,935	1,946	28,595
令和 5年度（B）	1,093	855	1,021	1,505	4,252	2,374	2,523	2,216	2,654	1,752	1,363	1,230	22,838
（A）/（B）	118.3	257.8	178.0	96.9	114.2	108.6	94.1	174.4	112.3	－	－	158.2	125.2
増減要因等	コロナウイルス感染症の影響が薄れ、利用が回復しつつあることや、利用料金の引き上げにより利用料金収入は増加した。												

（3）利用料金見直しの状況（前年度と比べて）

見直しの有無	見直した場合はその内容
有	近年の大規模改修に伴う利便性及び資産価値の向上、近年の物価や人件費の高騰などを考慮し、文化会館条例・文化会館管理規則の一部改正により、令和6年4月から全体的に利用料金が引上げられた。

（4）開所日・時間の見直し等の状況（前年度と比べて）

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和 6年度（A）： 282日	令和 6年度（A）： 9:00～21:30	無	
令和 5年度（B）： 280日	令和 5年度（B）： 9:00～21:30		

（5）サービス向上のため実施した内容

申込期限を過ぎても可能な限り期間外申請を受けるなど、利用者の要望に応えた。
また、閑散期（４月）の割引、申込期限(40日前)を過ぎてからの時間貸し制度を行うなどして利用促進を図った。
小ホールの展覧会使用における利用料金の割引、ピアノの利用料金の割引などのサービスを実施した。

（6）その他実施した取組内容

建物周囲・ロビー・洗面室等の清潔さを確保するほか、植栽の管理を行った。
屋外にベンチを増設するなど、利用者のニーズに応えた。

（7）利用者の主な声及びその対応状況

利用者懇談会や運営協議会を開催し、来場者の減少傾向対策、広報・宣伝の強化、大・小ホール、美術展示ホール、プラネタリウムを連動する自主事業の企画や来場者に本来の目的以外の催事を案内し鑑賞機会を増やす取組みのほか、子どもの文化芸術の鑑賞機会の増大や芸術文化活動の受け入れ先としての会館のあり方、部活動の地域移行の問題などについて多くの意見をいただき、今後の運営に役立てることができた。

これからは、来場者の減少傾向への対策のひとつとして今以上に広報・宣伝に力を入れ、当館の強みである美術展示ホール、プラネタリウムをホールと連動・活用するなど、施設機能の相乗効果を活用した運営・事業を展開していく。

また、当館を多く利用する次世代を担う子どもたちに対しては、貸館や自主事業を通じて、文化芸術の振興・支援を積極的に講じてまいりたい。

８　管理運営状況（実施状況及びそれに対する評価を記入）　　※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指定管理者	所管課	評価
施設の目的に沿った管理運営	「県民の文化振興と福祉の増進」を使命として、「提案書」「計画書」に掲げた目標達成に努めた。 管理運営者として要求される「サービスの向上」と「経費の縮減」に沿って、管理運営を行ってきた結果、主要業務である「施設管理」「貸館事業」「自主事業」において、概ね計画どおり業務を遂行できた。新型コロナウイルス感染症は概ね収束し、貸館や予定していた自主事業は実施することができた。 管理運営については、安全な施設管理を行うとともに、電力料金が高騰するなか電力使用量の節減を図るなど環境に配慮した運営に務めた。 財政的にも効率的な運用に努めたが、人件費および電気代の高騰により968万4千余円の純損となった。 貸館事業においては、利用者の平等利用に務め、利用者の立場に立った貸館サービスを行った。 このように、幅広いニーズに対応した事業を展開し地域文化の振興に貢献することができた。	基本協定書、仕様書及び年度計画書に基づいた管理運営が実施されたと認められる。	B
平等な利用の確保	・会館を利用しようとする人・団体に対しては、制限をしていない。 ・主に南信地域の幅広い地域の人々へ、またグループ・個人を問わず学び、参加し、創造し、発信しようとする幅広い県民へ、平等公平な利用の確保に努めた。	平等な利用が確保できたと認められる。	B
利用者サービス向上の取組	・ホームページ、SNS、メディア（プレスリリース）、「イベントガイド」等で県民への情報提供を図った。 ・イベントアンケートや運営協議会、利用者懇談会等を通じて利用者意見を取り入れた。 ・自主事業において25歳以下のチケット料半額割引制度を導入し、若者が良質の文化芸術の鑑賞を得やすくした。	・HPの更新や、新たな割引制度の導入等により、利用サービスの一層の向上を図っている。 ・アンケートや利用者懇談会等を通して利用者のニーズの把握に努め、利用者の意見に対して柔軟に対応している。	A

（様式２）

項目	指 定 管 理 者	所　　管　　課	評価
自主事業	地元のオーケストラと合唱団がプロの演出家達と一緒につくりあげた、−團伊玖磨生誕100年−市民オペラ「夕鶴」公演や、伊那市長谷にある鹿嶺高原キャンプ場の「Kareinaテラス」での自然の中で開催する天空のオーケストラ−「鹿嶺高原コンサート」、また高遠出身の池上秀畝の生誕150年にあたり開催した「生誕150年池上秀畝展−ただ絵が好きで好きで−」など34事業を実施し幅広いニーズに対応した事業を展開した。多くの皆さまに大変喜んでいただき、地域文化の振興に貢献することができた。主な自主事業の状況は以下のとおり。 ・團伊玖磨生誕100年−市民オペラ「夕鶴」(6月30日) 地元のオーケストラと少年少女合唱団が長野県外から招聘するプロの演出家や舞台監督、また、指揮者、ソリスト等と共同でハイクオリティな舞台づくりを行った。また県民の創作活動・発表の場を提供すると共に、小学生から高齢者の方まで幅広く、一流の芸術文化に触れる機会を提供することも出来た。市内の小学6年生を対象に事前学習の意味も込めた読み聞かせワークショップを行った事により、日本のオペラの代表作である「夕鶴」を通じて芸術文化に興味を持ってもらう機会となった。家族で楽しめる作品は、音楽と演劇の両要素を持ち合わせ、気軽に楽しんでいただくことができ大好評だった。 ・アルプス・ユースコーラスフェスティバル(9月8日) 上伊那地域の中学校及び高等学校の合唱部生徒が共に集い、聴き合い歌い合う合唱祭を開催した。中学校4校、高校生5校の生徒同士が交流を図り、練習の成果を思う存分発揮した。若々しい歌声がホールいっぱいに響き渡った。 ・天空のオーケストラ−鹿嶺高原コンサート（10月5日） 伊那市長谷にある鹿嶺高原のテラスで地元のオーケストラと合唱団がプロの指揮者の指揮で、伊那谷の自然とクラシック音楽の調和を届けると共に、二つのアルプスに囲まれた伊那市や南信地域の観光の魅力を発信する、自然の中で開催するオーケストラコンサートを計画した。当日は荒天により、伊那文化会館 大ホールホワイエでの開催となったが、ホワイエ東側、南側の扉を開放し、キャンプ場での開催に近い形で開催できるよう努めた。普段のホール公演とは異なり、よりお客様と演奏者の距離が近づき、親しみやすい雰囲気の中公演を行うことが出来た。予想以上の来場者にとても好評だった。 ・アウトリーチコンサート （7月3日・12月4日・2月4日・5日） 障害を持つためにコンサートに足を運ぶことが難しい子ども達を対象に、気軽に音楽を鑑賞できるコンサートを開催し、誰もが音楽を楽しむことができる機会を提供した。 伊那市立伊那中学校での年3 回の継続した実施のほか、伊那市内の小中学校へ募集を実施し、応募のあった学校にて実施した。 音楽を使ったワークでの子どもたちの意見をアーティストが尋ねる場面では、アーティストが子どもたちに寄り添い意見を引き出して肯定することで、積極的に回答する子どもたちが多く見られた。また、その様子を見た先生方からは、「普段の授業では見られない積極的な姿を見ることができた」とのお声をいただいた。特に、年間を通して実施した伊那中学校では、回を重ねるごとに生徒たちとアーティストのコミュニケーションが円滑になり、この公演のために登校する生徒がいた、とのお話しもあった。子どもたちの音楽を通じて自由に表現する姿が見られた。 ・第16回信州農村歌舞伎祭（2月23日） 下條村こども歌舞伎教室、大鹿歌舞伎保存会出演で、地歌舞伎の公演を行い、玄関ホール等には特産品の物産コーナーを設けるなど終日楽しんでいただいた。子供達が古典芸に取組むことを長く続け、農村歌舞伎の伝統がいつまでも続くように期待する声を多くいただいた。 また、地元企業等から協賛金を募り、農村歌舞伎の持続的発展に活用した。 ■美術展示ホール 「 生誕150年池上秀畝記念展−ただ絵が好きで好きで−」(3月30日～5月12日） 池上秀畝生誕150年と銘打った展覧会を同時期に6館で行った。3館共同（練馬区立美術館・長野県立美術館・伊那文化会館）図録、全館共同チラシ、リレー新聞連載、4館連携カードの配布等を行った。連携した展覧会の実施により展覧会の内容の充実が図れた。イベント・広報も連携して行うことで相乗効果を狙った。 「ザワメキアート展2024 ネイチャー イン アウト（伊那会場）」(9 月 28 日～10 月6 日） 障がいのある方が生み出す個性的な作品を長野県では「ザワメキアート」と名付けて2016年から展覧会を開催しており、今年度は、大町市「北アルプス国際芸術祭2024」と連動して開催した。伊那文化会館・大町市総合福祉センターの2会場を展覧会場とし、両館の企画・実施・キュレーションにも伊那文化会館学芸員が参加した。展示では、「北アルプス国際芸術祭2024」のコンセプトである「水・木・土・空」に呼応して、4つのテーマで、16名の長野県内の障がいのある作家たちの作品を紹介した。伊那文化会館会場では、ワークショップと映画上映を実施。障がいのある方の芸術参加を支援するとともに、鑑賞者の方々にも多様なアートに触れる機会を提供した。 「2024長野県立美術館移動展 in 伊那文」(10月19日～11月17日） 長野県立美術館との共同主催で行った県立美術館移動展では、南信地域で県立美術館の収蔵作品を観る機会を提供することができ、地域の方々にも大変好評であった。 「伊那谷で育った中村不折に続け！書道ワークショップ」(2月8日～3月5日) 昨年度まで10回にわたり、上伊那・書初め書道展として行ってきたが、今年度は事業内容を一新して、書道ワークショップを開催した。ワークショップ参加者からはいつもはできない体験で楽しかった、との感想をいただいた。のびのびとした子どもたちの作品と共に中村不折の作品を紹介し、郷土の偉人「中村不折」を知るきっかけを作ることで、地域文化の振興につなげることができた。	オペラ公演にあわせた学校へのワークショップや、地元のオーケストラ・合唱団との連携、北アルプス国際芸術祭との連動企画やプラネタリウムの活用など、地域に密着しながら施設の特性を活かした事業が広く柔軟に展開されている。	A

	■コラボ・プラネタリウム 地元にゆかりのある人たちとの音楽や演劇などのコラボレーションイベントを実施した。 「踊る？宇宙の旅 長野県-伊那版」（8月30・31日） プラネタリウム空間を活用して、舞踊家の木野彩子さん、地元のコントラバス奏者、伊那少年少女合唱団員、シンガーソングライターと一緒に実施した。身体と宇宙のつながりをテーマに、宇宙とダンス、歌声、音楽を掛け合わせた複合芸術をプラネタリウムの映像とともに上演した。癒しの歌声と、演奏、ダンスとのコラボレーションがプラネタリウムと一体となり、ドームの星空に響き渡った。 「春待ちのほしぞら リラックスタイムコンサート」（1月31日・2月1日） チェロとピアノの編成によるコンサートを実施した。星や天体に関する曲目を中心に、星空の投映等も交え、プラネタリウムという場所の性質や演奏楽器の特性を生かし、リラックスしながら星空と音楽の調和を楽しんでいただけた。 「東部中学校演劇部公演『宇宙大戦争-友情と優しさ』」（3月16日） 地元の中学生の演劇部員が自ら考え、一つの上演作品を作り上げた。高校演劇が盛んな地域ではあるが、中学校の演劇は珍しく学校以外での発表の場がほとんどない。そんな中学生に発表の場を提供するとともに、普段プラネタリウムになじみのない方が足を運ぶきっかけや、プラネタリウムの幅広い活用をPRすることに繋がった。		
職員・管理体制	職員16人。 協定書（事業計画書）に基づき館長、副館長、施設運営課・企画広報課・舞台課を配置。 課長等以上で構成する検討会議を設置し、管理運営等事項について検討・決定した。検討結果については、調整会議、各課会等で全職員に周知徹底した。	仕様書及び年度計画書に基づく適正な職員配置が行われている。	B
収支状況	一般会計は、収入250,308千円に対し支出259,992千円であり、収支差額9,684千円の赤字となった。	総収入に占める財団からの繰入金収入の割合が増加しているため、収支計画の見直しを検討されたい。	C
総合評価	自主事業では、手作りの市民オペラ「夕鶴」やアルプス・ユースコーラスフェスティバルなど、市民主体の事業を積極的に行い、いずれも盛況であった。 また、足を運ぶことが難しい小中学校の特別支援学級の子どもたちを対象にアウトリーチコンサートを開催した。 美術展示ホールでは「生誕１５０年池上秀畝記念展」や障がいのある方の創作活動を発表する展覧会「ザワメキアート展2024」、郷土の偉人 中村不折を紹介する「書道ワークショップ」を開催、プラネタリウムでは、舞踊家であり大学教授の木野彩子さんによるコンサート、コラボプラネタリウムなど、幅広く精力的に事業を企画・実施した。 管理運営面においては、多くの声に耳を傾け、県民サービスの提供を行い、費用対効果の高い運用に努めたが、人件費、電気代の高騰により純損を出したが、概ね計画どおりの運営ができた。 空調設備工事も終わり空調環境が整ったほか、大小ホールを除くすべての照明をLED化し、照明環境の整備と省エネを進められた。 このように、全職員が一丸となって事業運営に取り組んだ結果、求められる成果を十分果たすことができたと評価している。	館の特長を生かし、地域と連携した事業の実施が認められた。概ね仕様書等の内容通りの成果があり、適正な管理運営が行われている。	B

＜評価区分＞ A：仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B：おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
C：仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D：仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

９ 施設管理運営の課題

項 目	指 定 管 理 者	所 管 課
施設の管理運営の課題	人口減少、少子高齢化、趣味嗜好の多様化の進展のほか経済環境の変動等により、貸館・自主事業の集客について今後、厳しい状況が見込まれる。 このような中、当館が、南信地域の文化芸術振興の拠点として、その使命を果たしていくためには、内外の環境変化に対応しながら、安全・安心で快適で使いやすい会館を基本に、リニューアルした大・小ホール等はもとより当館の強みである美術展示ホールやプラネタリウムの効果的活用を積極的に図り、心に刻まれる魅力あふれる事業を展開していくことが必要である。 そのためには、会館以来リハーサル室がなく楽屋も不足がちで、さらに駐車場スペースの恒常的な不足によりお客様に不便を強いていることや、大・小ホールの照明・音響設備の老朽化、LED化等が課題である。 日々の業務については、急速に変化している会館を取り巻く環境変化に的確に対応するため、体制の見直しが必要である。 さらに、社会のIT化が急速に進展している中、利用者・顧客サービス向上のほか業務効率化のための対応が求められている。 当館を老若男女・障がいの有無や地域を問わず広く多くの方々に利用していただくためには、利便性を追及するとともに、広報宣伝は重要な課題である。大・小ホールや美術展示ホール、プラネタリウムといった会館の魅力やイベント情報を適時・的確かつ効果的に県民に周知し来館してもらえるよう、広報宣伝の媒体、エリア、数量、内容等を改めて見直し、改善していくことが必要である。 人材育成の面では、専門性・経験・技術の継承を確保する職員研修等をさらに充実させていく必要がある。	・施設や設備の課題に対しては、県全体のファシリティマネジメントの中で、計画的な修繕、改修を行っていく。 ・利用者サービスの更なる向上や、来館者数増加のための効果的な広報宣伝の取組をお願いしたい。 ・引き続き地域とともに特色ある事業を展開し、利用者の確保に努めていただきたい。

（様式2）

10　第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況（第三者評価実施年度の翌年度以降に記載）

【実施年月日：令和2年11月10日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
地域に密着した施設の特色を活かした取組を、地域と協力して進めるとよいのではないか。	美術展示ホールを活用した地域の小学生の書道展のほか地域の中学生がプラネタリウムとコラボレートする演劇や隣接する公園での天体観望会を行っている。	館の特色である美術展示ホールとプラネタリウムを活かして、地域の小中学生と協力した事業が行われている。
施設利用料金の減免制度について積極的な広報を行い、利用者の増加を図る取組をお願いしたい。	施設利用料金の減免制度については、ホームページで紹介しているほか、外部からの問い合わせや初めての利用時には、丁寧に案内している。	減免や割引制度について幅広く周知いただき、引き続き利用促進につながる取組をお願いしたい。
託児サービスの一層の充実や、親子で来館できるサービスの充実をお願いしたい。また、地域（中学校、高校等）の行事を含めながら、身近で親しめるようなものを行うことは、利用者のサービスの向上につながると思う。	リニューアルしたプラネタリウムでは新しく親子席を設けた。地域の学校行事（入卒式、文化祭等）やクラブ活動にも多く利用していただいている。	引き続き多くの地域住民に気軽に足を運んでいただけるよう、広報等に取り組んでいただきたい。
今後スマートフォン、パソコンを使って情報収集を図る傾向は一層強まると思われることから、利用者目線に立ったホームページの充実に努めてほしい。また、フェイスブックやツイッターなど、SNSでの情報発信を進め、若年層への情報提供をより積極的に行ってほしい。	ホームページについては、令和3年４月にリニューアルし、利用者にとって、よりわかりやすくなるよう改善した。フェイスブックやツイッターによる情報発信についても令和3年度から実施しており、若年層を含む広い年代層へ情報提供を行っている。	ホームページのリニューアルなど、利用者目線の情報発信に努めている。SNS等を利用した、効果的な情報発信を引き続きお願いしたい。
地元の中・高校生の利用も多いとのことから、地元の中・高校生や出身者が鑑賞者、あるいは出演者となり、次世代の文化の担い手となるような自主事業は、当施設の特色を活かした企画となると思われる。	地域の小学校の合唱団等や当館のジュニアオーケストラ（小学生から高校生までを対象に育成している弦楽アンサンブル）などが参加して行う合同演奏会を実施した。また、上伊那地域の中学校及び高等学校の合唱部生徒が共に集い、聴き合い歌い合う合唱祭を実施するなど、次世代が文化の担い手となるような自主事業に努めている。	地元の中・高校生が参加できるような、会館の特色を活かした自主事業を引き続き実施いただきたい。
職員体制について、事業課長などの欠員がみられるが、組織運営上支障のない配置に配慮してほしい。	適正な職員配置については、従前より事務局に要望しているところである。欠員に対しては、職員同士が協力するなど、組織全体で対応するようにしている。	利用者サービスとの均衡を図りながら、弾力的な勤務体制による運用をお願いしたい。